NECの成長と社会の発展を支え、価値を最大化するESG視点の経営優先テーマ

NECは、社会とNECグループの持続可能な発展に向けて、創業以来、環境や社会に配慮した事業活動を行っています。2020中期経営計画の策定にあたり、当社がこれまで実践してきたESG（環境・社会・ガバナンス）視点での非財務の取り組みを、より一層事業戦略と結びつけて自らの成長と社会の発展につなげていくため、ESG視点の経営優先テーマ「マテリアリティ」を特定しました。NECが「Orchestrating a brighter world」実現に向けて着目したグローバルメガトレンドやSDGsなどを参考に、候補となるテーマを洗い出しました。その上でサステナブル経営、市民社会、中長期投資家の視点などに精通した社外の有識者との対話を進め、中期経営計画との連動をはかることを強く意識したテーマを特定しました。今後、中期経営計画のPDCAサイクルを回す中で、取り組みの進捗を確認していきます。

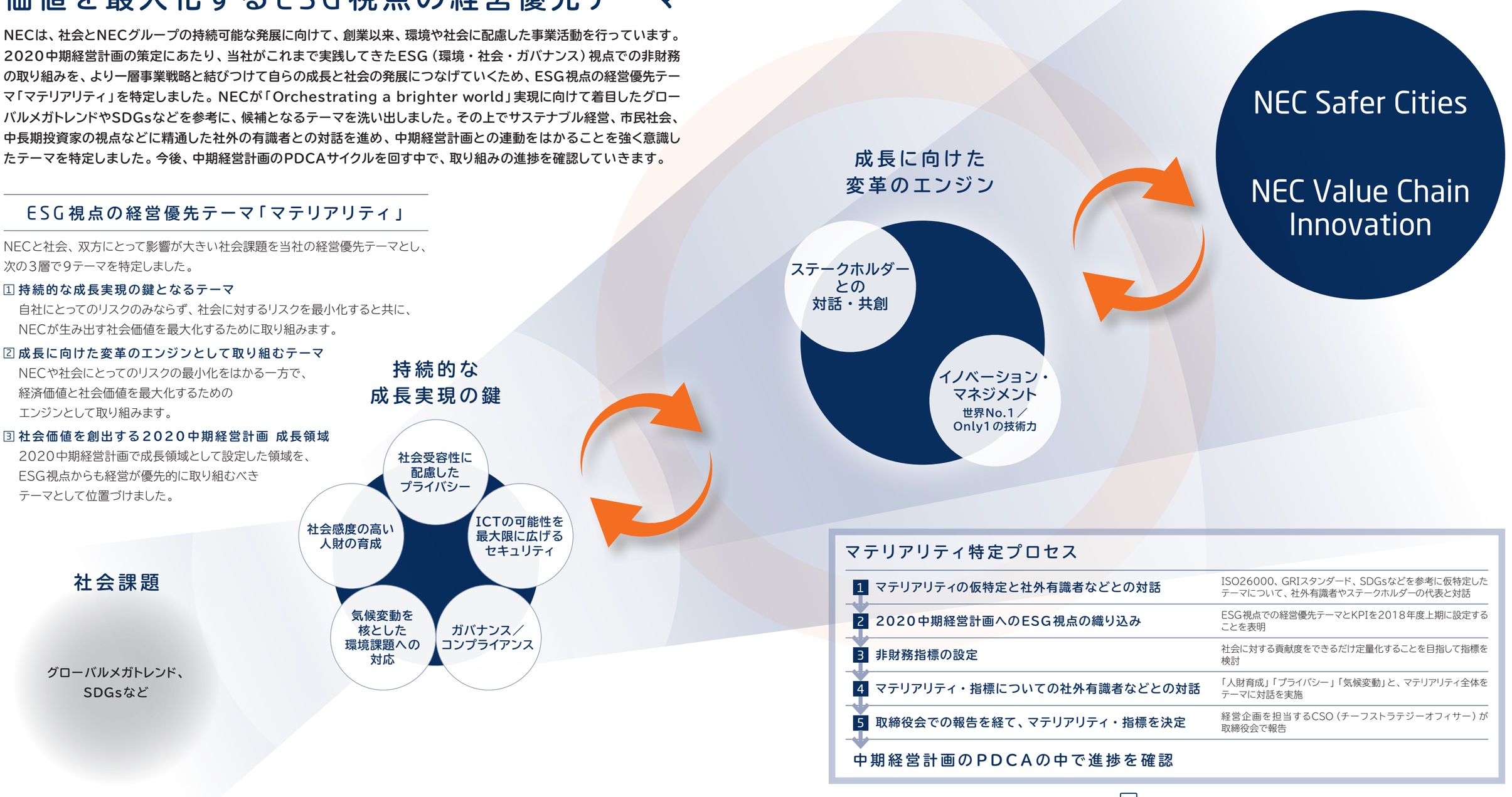
ESG視点の経営優先テーマ「マテリアリティ」

NECと社会、双方にとって影響が大きい社会課題を当社の経営優先テーマとし、次の3層で9テーマを特定しました。

1 **持続的な成長実現の鍵となるテーマ**
自社にとってのリスクのみならず、社会に対するリスクを最小化すると共に、NECが生み出す社会価値を最大化するために取り組みます。

2 **成長に向けた変革のエンジンとして取り組むテーマ**
NECや社会にとってのリスクの最小化をはかる一方で、経済価値と社会価値を最大化するためのエンジンとして取り組みます。

3 **社会価値を創出する2020中期経営計画 成長領域**
2020中期経営計画で成長領域として設定した領域を、ESG視点からも経営が優先的に取り組むべきテーマとして位置づけました。



マテリアリティ特定プロセス

1	マテリアリティの仮特定と社外有識者などとの対話	ISO26000、GRIスタンダード、SDGsなどを参考に仮特定したテーマについて、社外有識者やステークホルダーの代表と対話
2	2020中期経営計画へのESG視点の織り込み	ESG視点での経営優先テーマとKPIを2018年度上期に設定することを表明
3	非財務指標の設定	社会に対する貢献度をできるだけ定量化することを目指して指標を検討
4	マテリアリティ・指標についての社外有識者などとの対話	「人財育成」「プライバシー」「気候変動」と、マテリアリティ全体をテーマに対話を実施
5	取締役会での報告を経て、マテリアリティ・指標を決定	経営企画を担当するCSO（チーフストラテジーオフィサー）が取締役会で報告

中期経営計画のPDCAの中で進捗を確認

詳しくはサステナビリティレポート2018「ESG視点の経営優先テーマ」をご覧ください。

目指す姿と非財務指標

9テーマそれぞれに、目指す姿と、取り組みの進捗を測る非財務指標を設定しました。

マテリアリティ	目指す姿と主な取り組み	主な非財務指標と目標
持続的な成長実現の鍵となるテーマ		
ガバナンス／コンプライアンス p.39、43	**社会から信頼されるNEC** ■ コンプライアンスの徹底 ■ 人権課題への対応や品質の維持・向上	■ **指標**：重大なカルテル・談合行為の発生件数 ■ **2018年度目標**：0件
気候変動を核とした環境課題への対応 p.51	**世界全体での温室効果ガスの削減とお客さまや社会の気候変動対策への貢献** ■ 自社の事業活動に伴うCO_2排出量を2050年に実質ゼロとする ■ 気候変動を核とした環境課題へ対応する製品・サービスの提供	■ **指標**：サプライチェーン全体のCO_2排出量に対するCO_2排出削減貢献量 ■ **2020年度目標**：5倍
社会感度の高い人財育成 p.50	**お客さまをはじめとする社会に受け入れられる製品・サービスの提供** ■ 社会のニーズや潜在的な課題をいち早く察知し、スピード感を持って課題解決できる「人財」の育成 ■ 多様な価値観を受け入れ、社会価値を創造し続ける組織風土の醸成	■ **指標**：会社が多様な価値観を受け入れ、社会価値を創造する方向に変革しているという実感を持つ従業員比率 ■ **2018年度目標**： NECグループの従業員に対する意識調査の設問を見直し、2020年度に向けた具体的な目標値を設定
社会受容性に配慮したプライバシー p.49	**国・地域や文化によって捉え方に違いのあるプライバシーや、AIの活用によって助長される可能性のある差別問題などの人権課題に配慮した製品・サービスの開発・提供** ■ プライバシーをはじめとする、NECの事業活動における人権尊重の考え方の明確化	■ **指標**： 1 人権、プライバシーの観点から取り扱いが難しいケースをテーマとしたマルチステークホルダーとの対話数 2「Human Rights by Design」*に基づく研究、商品開発、サービス提案への織り込み数 ＊プライバシーや公平性など人権尊重の考え方をバリューチェーンの各プロセスに組み込むこと ■ **2018年度目標**： 1 四半期に1回実施 2 2020年度に向けた具体的目標値を設定
ICTの可能性を最大限に広げるセキュリティ 情報セキュリティ報告書	**お客さまや社会が安心してICTを利用できる環境の提供** ■ 情報セキュリティ、サイバーセキュリティの分野でのリスク最小化に向けた取り組みの推進	■ **指標・目標**： 1 サイバーセキュリティ対策強化と情報漏えいを防ぐための情報セキュリティ対策を確実に推進することで、重大セキュリティインシデントによる影響を極小化 2 NECグループの情報セキュリティのレファレンス事例やセキュリティを組み込んだ製品・システム・サービスを訴求
成長に向けた変革のエンジンとして取り組むテーマ		
ステークホルダーとの対話・共創 p.15	ステークホルダーとの対話を通じて、お客さまや社会の課題やNECの取り組みに対する社会の声に気づき、共に価値を創る仲間をつくり、共創へとつなげる。	指標設定なし
イノベーション・マネジメント p.17	社会の変化に伴い、求められる技術が変容しても、SDGsなどに照らして、製品やサービスという形で社会が求める技術を価値として提供する。	指標設定なし
2020中期経営計画における成長領域		
NEC Safer Cities	都市への急速な人口集中により、経済の発展や生活・文化の多様化が新たな価値を創造する一方で、犯罪やテロなどの増加が懸念されている。NECは、生体認証や映像解析を含むAI、IoT関連の先端技術を活用し、人々がより自由に、個人の能力を最大限に発揮して豊かな生活を送ることのできる、安全・安心で、効率・公平な都市の実現を支えていく。	例えば、生体認証ソリューションの導入数、AI活用型の防犯・防災システムの導入団体数など、NECの製品・サービスを広くお客さまに提供することによって、社会価値を質・量ともに大きくする。 2020年度に向けて、海外での売上拡大に特に注力し、海外売上2,000億円を目指す。
NEC Value Chain Innovation	食料廃棄や労働力不足、消費環境の変化、多様化する脅威など、社会や企業はさまざまな課題に直面している。NECは、最先端のデジタル技術を活用し、お客さまとの共創活動を通じて、人やモノ、プロセスを企業・産業の枠を超えてつなぎ、新たな価値を生み出すことで、地球との共生、企業の持続的な成長と人が豊かに生きる社会を支え、未来を創っていく。	例えば、需給最適化を目指す「NEC Value Chain Innovation」を推進するなど、サービスの開発・提供数を伸ばすことで社会価値の拡大を目指す。 2020年度までに日本国内において、「NEC Value Chain Innovation」をはじめとする成長分野で、850億円の売上拡大を目標とする。

SDGs達成に貢献するNECの取り組み

ICTにはさまざまな課題に対応できるポテンシャルがあり、私たちは、お客さまをはじめとする多様なステークホルダーと対話・共創することで、SDGsの目標すべてにさまざまな形で貢献できると考えています。

例えば、2020中期経営計画の成長領域である「NEC Safer Cities」と「NEC Value Chain Innovation」においてNECが主体的に貢献していきたいと考える目標だけでも、下図のように、3番、7番、8番、9番、11番、12番、16番、17番と多岐にわたり、目標として掲げることのできるターゲットも複数あります。

また、社外の有識者からは、取り組むSDGsを絞り込むことにより、事業展開の領域や、製品・サービスが提供する社会価値の可能性を自ら狭めてしまうリスクがあるとの指摘も受けています。

そこで、NECが広くSDGsに貢献しようとしている姿を示すべく、各マテリアリティに対し、「NECが主体的、能動的に貢献していきたい目標」と「NECが貢献できる、あるいは今後取り組みたい目標」をSDGsのターゲット単位で整理しました。

今後はSDGsに対する社内の啓発活動を進め、NECが貢献できる領域の拡大や、NECの事業が生み出す社会価値を測る指標などに積極的に活用していきます。

SDGsへの貢献領域

■ NECが主体的、能動的に貢献していきたい目標
■ NECが貢献できる目標、今後取り組みたい目標

	貧困	飢餓	健康福祉	教育	ジェンダー平等	水と衛生	エネルギー	雇用	インフラ構築	不平等	都市	生産消費	気候変動	海洋	陸	平和公正	パートナーシップ
NEC Safer Cities	1.4		3.8	4.a		6.4		8.3	9.3 9.a	10.7	11.2 11.3 11.7 11.b			14.1		16.6 16.a	17.16
NEC Value Chain Innovation		2.1 2.4 2.a 2.c	3.6				7.2 7.3	8.1 8.2 8.8	9.1 9.3 9.4		11.2	12.2 12.3	13.3				17.16
ステークホルダーとの対話・共創			3.8	4.3 4.4 4.a				8.1 8.2 8.3 8.8	9.1 9.4		11.2 11.3 11.b	12.8	13.3			16.6 16.7 16.a	17.16 17.17
イノベーション・マネジメント			3.6 3.8 3.b		5.2		7.3	8.1 8.2 8.3 8.8	9.1 9.3 9.4 9.5 9.a	10.5	11.2 11.3 11.b	12.2 12.3 12.5	13.1		15.2	16.1 16.2 16.6 16.9 16.a	17.6
社会感度の高い人財の育成				4.3 4.4 4.5 4.a	5.1 5.5			8.3 8.5 8.7	9.2	10.2 10.3			13.3			16.5	17.16
社会受容性に配慮したプライバシー					5.2			8.7	9.5							16.1 16.9 16.10	17.16
ICTの可能性を最大限に広げるセキュリティ									9.5		11.1 11.7					16.1 16.3	17.16
気候変動を核とした環境課題への対応	1.5	2.4	3.d			6.4	7.2 7.3 7.a 7.b		9.4		11.5 11.b		13.1 13.3	14.2 14.5	15.1 15.4 15.5		17.16
ガバナンス／コンプライアンス					5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3		12.7				16.1 16.2 16.5 16.6	17.16

表中の数字はSDGsのターゲット番号です。詳しくは国際連合広報センターのサイトをご覧ください。
URL http://www.unic.or.jp/